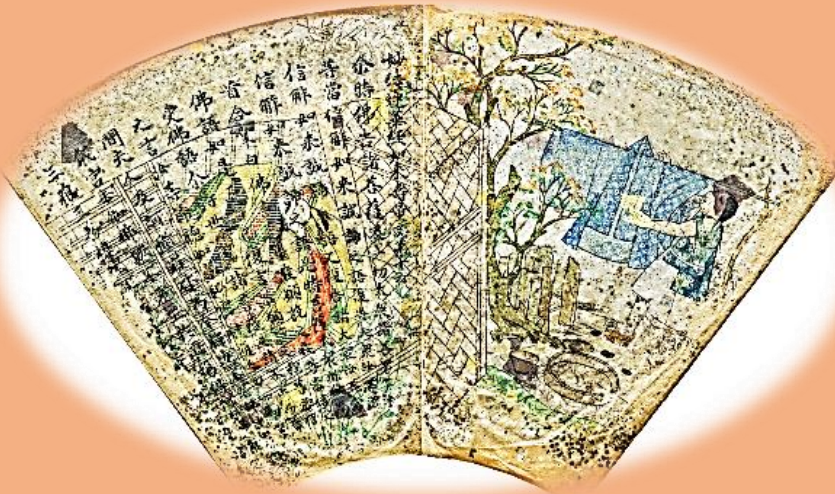


2021年度 四天王寺大学 学芸員養成課程修了予定者による学内展示

四天王寺所蔵国宝 『扇面法華経冊子』の世界

下絵に描かれる平安時代の暮らしを「かいま見る」



会期：2022年1月11日（火）
より2月17日（木）まで
場所：四天王寺大学図書館前学習
ラウンジおよび図書館入口脇
に設置の展示ケース

四天王寺所蔵 国宝『扇面法華経冊子』の世界 下絵に描かれる平安時代の暮らしを「かいま見る」

四天王寺では、2022年に聖徳太子千四百年御聖忌を迎えるにあたり、寺宝の学術的な調査を実施された。その過程で、2020年より東京文化財研究所の協力を得て『扇面法華経冊子』の光学調査が行われ、その際に『扇面法華経冊子』の2億画素の超高精細デジタル撮影も行われた。本展示は、このデジタル撮影データを総本山四天王寺よりご提供いただき構成したものである。

四天王寺に所蔵される国宝『扇面法華経冊子』は、美しく荘厳された写経である装飾経の一つで、現在四天王寺に無量義経1巻、法華経第一、第六、第七の3巻、観普賢経1巻の5帖が伝来する。平安貴族が信仰した法華経においては、法華経を書写すること、つまり写経の功德が大きいことが述べられ、法華経を写経し、それを供養することが奨められ、書写された経巻を美しく装飾した「装飾経」が多く制作されることになった。また、法華経では、他の経典ではあまり触れられない「女人成仏」が説かれる。こうして、平安後期の皇族や貴族の女性たちの間で、美しく装飾された法華経を制作しこれを供養することが、しばしば発願された。

本展示の第一章では、「いつ、誰が、何のために、この扇面法華経冊子を制作したのか」という問いを立てて、その答えを探そうと思う。さらに、第二章と第三章では、下絵に描かれる女性の姿に焦点をあてて、いくつかの下絵を選び、そこに描かれる平安時代女性の生活を紹介することとする。『扇面法華経冊子』の下絵に描かれた平安時代の女性たちの姿と、現在の私たちの日常とを比較しながら、その周辺の文化にも目を向けて、「平安時代の女性の生活」について考えてみたい。

そして、この展示では、現在四天王寺に所蔵される44面の扇絵のうちの半数以上の扇絵が、最新技術で撮影された精巧な写真で紹介されることにも注目してほしい。四天王寺に所蔵される国宝『扇面法華経冊子』についての理解を、より深めることが可能になる貴重な展示となっている。

本展示で展示される『扇面法華経冊子』扇絵写真一覧

プロローグ	雪の朝の公卿を見送る女たち
簀子掃除の男と水中の女たち	店の前に行く女房達(一)
法華経第七表紙 無厭足羅刹女	店の前に行く女房達(二)
かいま見	泉殿に涼む女房達
公卿と衛府官	第三章
第一章	露草を摘む女たち
雪の日の大饗	柿を採る男女と泉の水を飲む
文を読む公卿と童女	女房と干し物をする碑女
第二章	屋内の女房と干し物をする碑女
船遊び	井戸端に憩う物詣の一行と水汲みの碑女
紅葉を賞でる女房と栗拾いの女たち	湧水の井を囲む女たち
紅葉狩り	井戸端に集う女たち
草合わせ	女井戸端の夕立
文を読む公卿と童女	蔀を下した泉殿
柳にかけた糸を繰る女房	器物を洗う女たちと近寄る男
髪を洗う女たち	泉の水を飲む女とのぞき見る男
かいま見	水を渉る女たちと樹上の男
花吹雪	小祠の傍に歌謡する男女

本展示及び関連資料で用いる『扇面法華経冊子』の撮影は、城野誠治氏(東京文化財研究所)によるものです。また、今般、最新の精巧な写真データをご提供いただきました総本山四天王寺に深謝いたします。